

宮内卿

奏請大司 宗秩 一三

豊林入出 年 廿三 叙

宮内卿 豊林 平 奏 另

昭和 二十 年 六月 十八 日

丙 奏請大司 宗秩 一三  
市の春の節 諸君の参り ます 女 子 小 娘 指 引 願 心  
一 殊 本 封 界 大 封 心

立案 昭和 年 月 日  
決裁 昭和 年 月 日

宗秩 奏請



宗秩 奏請



運輸技官 飯倉 勝外 三名 叙位 の 件

昭和 二十 年 五月 三十 日  
宣 讀 記 七 月 九 日

宮内省

三



三

運輸技官飯倉勝外三名叙位の件

宗務省印

宮内省

昭和二十一年六月二十一日

光緒 昭和 年月 日



運輸技官飯倉勝外三名叙位の件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十一年六月二十一日

内閣總理大臣吉田 茂



月 日



内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣事務官

詔

別紙運輸技官飯倉勝外三名は運輸大臣稟  
申のとほり夫々死亡のところが在職中功績顯著なものであるから  
特に生前の日附にて頭書の叙位を上奏して良しと思ふ

内閣

内閣



鐵道省

右の者の功績は別紙履歷書の通りである

叙從七位	昭和二十一年四月四日 死亡任内務技手以來	運輸技官 飯倉 勝
叙從七位	昭和二十二年五月十三日 死亡任愛媛縣立弓削商船學校書記以來 在官十九年以上 (死亡當時百十圓)	運輸事務官 村上 辰夫



年號	月日	任免賞罰等	資格	在職年數	官廳名
昭和	八	任内務技手給五級俸			内務省
		仙臺土木出張所勤務ヲ命ズ			
		塩釜港修築工事勤務ヲ命ズ			
		青森土木出張所勤務ヲ命ズ			
		兼野田工場主任ヲ命ズ			
		兼三工場主任兼野田工場主任ヲ命ズ			
		飯田級俸			内務省

飯倉 勝  
明治三十五年三月二十 生

逕諭直言書

履 歴 書

明治三十五年三月二十	飯倉 勝	内務省	給五級俸
明治三十四年八月八日	飯倉 勝	青森土木出張所	勤務
明治三十三年八月八日	飯倉 勝	兼野田工場主任	兼三工場主任
明治三十二年三月三十一日	飯倉 勝	兼野田工場主任	兼三工場主任
明治三十一年八月八日	飯倉 勝	兼野田工場主任	兼三工場主任

逕諭直言書



年 號	月 日	任 免 賞 罰 等	資 格	在 職 年 數	備 註
一三	五 一	在日蘇港修築工事局外新瀨工場主任命			川路省 土木出張所
一六	九 三〇	在日蘇港修築工事局外新瀨工場主任命			川路省 土木出張所
一七	一 三	任海軍技師 給三級俸			海軍省
		大湊海軍建築部 勤務主任命			
		兼任川路技師			川路省
		兼任土木出張所勤務主任命			
一八	四 一	事務局長 土木事務局長 技師			海軍省
		運輸局長 官立港務建設部			官立港務 建設部
		兼務局長 親父			
		在日港工事事務局工場主任命			川路省
一九	六 一七	任川路技師 給二級俸			川路省
		運輸局長 任者へ出向する命			
		任運輸局長 任者へ出向する命			

履 歴 書

運 轉 通 信 省

年 號	月 日	任 免 賞 罰 等	資 格	在 職 年 數	備 註
一〇	五 一	在日蘇港修築工事局外新瀨工場主任命			川路省 土木出張所
		官制改正 運輸技師 給二級俸			
		在日蘇港修築工事局外新瀨工場主任命			
		兼任川路技師			川路省
		兼任土木出張所勤務主任命			
		事務局長 土木事務局長 技師			海軍省
		運輸局長 官立港務建設部			官立港務 建設部
		兼務局長 親父			
		在日港工事事務局工場主任命			川路省
		任川路技師 給二級俸			川路省
		運輸局長 任者へ出向する命			
		任運輸局長 任者へ出向する命			
一九	七 一七	在日蘇港修築工事局外新瀨工場主任命			川路省 土木出張所
		兼任川路技師			川路省
		兼任土木出張所勤務主任命			
		事務局長 土木事務局長 技師			海軍省
		運輸局長 官立港務建設部			官立港務 建設部
		兼務局長 親父			
		在日港工事事務局工場主任命			川路省
		任川路技師 給二級俸			川路省
		運輸局長 任者へ出向する命			
		任運輸局長 任者へ出向する命			
二〇	五 一	在日蘇港修築工事局外新瀨工場主任命			川路省 土木出張所
		官制改正 運輸技師 給二級俸			
		在日蘇港修築工事局外新瀨工場主任命			
		兼任川路技師			川路省
		兼任土木出張所勤務主任命			
		事務局長 土木事務局長 技師			海軍省
		運輸局長 官立港務建設部			官立港務 建設部
		兼務局長 親父			
		在日港工事事務局工場主任命			川路省
		任川路技師 給二級俸			川路省
		運輸局長 任者へ出向する命			
		任運輸局長 任者へ出向する命			
二〇	五 一	在日蘇港修築工事局外新瀨工場主任命			川路省 土木出張所
		官制改正 運輸技師 給二級俸			
		在日蘇港修築工事局外新瀨工場主任命			
		兼任川路技師			川路省
		兼任土木出張所勤務主任命			
		事務局長 土木事務局長 技師			海軍省
		運輸局長 官立港務建設部			官立港務 建設部
		兼務局長 親父			
		在日港工事事務局工場主任命			川路省
		任川路技師 給二級俸			川路省
		運輸局長 任者へ出向する命			
		任運輸局長 任者へ出向する命			

運 轉 通 信 省

生



通轉通信省

二一三	水年勤績最著成績優秀ニシテ他ノ模範 ナク功立於一金一封授與シテ之ヲ表彰ス	連轉大臣
二一四、一	實業叙級令施行(連轉大臣)ニシテ 陸叙二級	内閣
四、四	十九号律ノ下賜	連轉省
二、四、四	第三号律(建設部勤績最著)ノ下 死七	

履歷書

村上辰夫

明治三十二年十一月十日 生

族籍

現住所

年號	月日	任免賞罰等	資格	在職年數	官廳 筆名
昭和二	三、三一	任愛媛縣立予制商船學校校長			渡及媛操
三	六、三〇	任愛媛縣立予制商船學校校長監業任之			
六	三、三一	兼任ヲ免ス			
一五	七、一	任予制商船學校助教			文部省
一六	一、二二	給五級俸			
一七	一、一	南洋通商官制施行(連轉省)ニシテ			

南洋通商官制施行



一八	六九	任 高 船 學 校 書 記 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
二〇	六一	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
二二	六二	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
二四	六三	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
二六	六四	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
二八	六五	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
三〇	六六	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
三二	六七	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
三三	六八	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
三五	六九	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
三六	七〇	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
三八	七一	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
四〇	七二	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
四二	七三	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
四四	七四	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
四六	七五	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
四八	七六	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
五〇	七七	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
五二	七八	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
五四	七九	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
五六	八〇	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
五八	八一	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
六〇	八二	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
六二	八三	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
六四	八四	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
六六	八五	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
六八	八六	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
七〇	八七	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
七二	八八	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
七四	八九	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
七六	九〇	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
七八	九一	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
八〇	九二	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
八二	九三	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
八四	九四	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
八六	九五	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
八八	九六	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
九〇	九七	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
九二	九八	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
九四	九九	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省
九六	一〇〇	任 高 船 學 校 校 長 兼 高 船 學 校 訓 導 兼 高 船 學 校 教 諭	逓 信 省

遲 延 理 由 書

叙位制度の一時停止期間中の特別叙位の取扱方に關して内閣入閣  
 第七五五號にて來牒ありましたが之が手續上に付十分なる連絡を  
 缺きたる爲め遂に上奏を遅延したるもので洵に恐縮の至りです  
 特別の御取計に依り叙位相成様願上ます

鐵 道 省



尋常の職務に於ては、殊に鐵道建設局に在りては、  
知事たる當りたるに、土表を越して、その下の地質を調査し、  
築き起すに當りて、來朝を以て、その地質を調査し、  
建設局長の一種として、鐵道建設局の局長に關して、内閣入閣

無任の敬慕

敘從七位昭和二十一年五月十二日死亡

昭和八年十二月二十日  
任鐵道屬

在官十二年以上  
(死亡當時百二十五圓)

運輸事務官山田直基

右の者の功績は別紙履歷書の通りである。



年	號	月	日	任	免	賞	罰	等	資	格	在	職	年	數	通	算
昭和八年	十一月	二〇日		任						七級	在	職				
同	年	同	日	工務局勤務ヲ命												
同	一七年	十一月	一日	官制改正						鐵道官補						
同	年	同	日	施設局規畫課勤務トナル												
同	一八年	十一月	一日	官制改正						運輸通信省トナル						
同	年	同	日	分課規程改正						鐵道總局施設局						

現住所 鐵道總局施設局

運輸事務官 栗山道基  
 明治三十七年 月 日生

本ノ職ニ充テラレタルニ付 昭和八年十一月二十日 鐵道總局施設局 事務官 栗山道基

(附) 賞 勲 章 一 章 (勲三等)

昭和八年十一月二十日



同 一九零九年 六月十五日	規畫課勤務トナル				十二年四月	十二年四月
同 一九零九年 三月十五日	給二級俸	一等				
同 一九零九年 五月九日	官制改正運輸省トナル					
同 一九零九年 四月一日	勅令第九十二號及第九十三號 ニヨリ運輸事務官三級百二十五圓トナル	運輸事務官三級	(別送)			
同 一九零九年 五月十五日	陸級二級 十九號俸ト賜	運輸事務官二級				
同 一九零九年 同月同日	鐵道總局施設局規畫課勤務	(兼任)				
同 一九零九年 同月同日	戦病死					
合計					十二年四月	十二年四月

同人は第八特設鐵道工務隊附として従軍し、復員の爲名古屋港に上陸後死亡したのであるが復員事務輻輳の爲連絡が遅延したものであるから特にお取運び願ひたい。



死亡診断書

①

一氏名 山田直基

二男女別 男

三出生年月日 明治三十七年十一月十一日

四職業 運輸事務官

五病死自殺其ノ他變死中毒ノ別 病死

六傷病名 「マラリア」

七發病年月日 昭和二十一年五月四日

八死亡年月日時 昭和二十一年五月十二日 午前十二時二十分

九死亡場所 名古屋市港區南陽通二丁目 名古屋市引揚援護局收容所病院

右證明候也

昭和二十一年五月十二日

名古屋市港區南陽通二丁目

名古屋市引揚援護局收容所病院

醫師 羽田幸典



叙從七位 昭和二十一年五月三十日死亡

(任昭  
鐵和  
道十  
局一年  
書十  
上二月  
以十六  
記日  
死亡  
當時  
百四  
十五  
圓)

右の者の功績は別紙履歴書の通りである。

運輸事務官 小畑 喜三郎



履 歴 書

運輸事務官

小畑喜三郎

明治三十八年一月二日生

年 號	月 日	任 免 賞 罰 等	資 格	在 職 年 數	通 算
昭和十	十	天任 鐵道局書記 給四級俸	判任		
〃	〃	札幌鐵道局勤務ヲ命ズ			
〃	〃	帶広駅庶務掛兼助役ヲ命ズ			
十	三	釧路運輸事務所庶務係勤務ヲ命ズ			
一	五	釧路車掌已助役ヲ命ズ			
一	五	大樹取長ヲ命ズ			九年五月

現住所 札幌鐵道局

此の書の内容は昭和十一年五月三十日現在のものである。  
 昭和十一年五月三十日現在のものである。  
 昭和十一年五月三十日現在のものである。  
 昭和十一年五月三十日現在のものである。



一七十一 一官制改正 鐵道官補

一六十二 一官制改正 運輸通信省トシ

一六十三 三二給二級俸 上及懐疑長ヲ命ス

一等

二〇三 三三給一級俸

二〇五 五官制改正 運輸省トシ

二〇四 一官制改正 運輸事務官三級四五圓

三〇 釧路管理新總務課勤務ヲ命ス

三〇五 三陸級二級

三〇七 三十七號俸下賜

三〇八 死亡

九年 五月

人壹第 四九一號

昭和二十一年六月十二日

運輸大臣 平塚 常次郎



内閣總理大臣 吉田 茂 殿

稟 請

叙位の件

運輸技官飯倉勝外一名は出身以來職務に精勵し其の成績顯著な者であつたが各頭書の日病氣に罹り死亡したので特に生前の日を

鐵道省



鐵道省

すべしふ改各展會の日ハ初原の節に於てしふのて終り主節の日を  
鐵道省官廳官廳代一名の出表以來種々の困難に其の宛應處を各

卷立の平

裏  
備

内閣總理大臣 吉田 英 總

鐵道大臣 平 塚 常次郎

訓令二十一第 六月 十二日

人登後四式一號



以て別紙名簿の位に叙せられるやう御詮議願ひ度

鐵道省



勅 旨

臣等謹言 奉 勅 旨 事 照得 勅 旨 事 照得

内閣 勅 旨 事

人 貳 第 一 二 七 〇 號

昭 和 二 十 一 年 六 月 十 一 日

運 輸 大 臣 平 塚 常 次 郎



内 閣 總 理 大 臣 吉 田 茂 殿

稟 請

叙 位 の 件



運輸通信省

運輸事務官山田直基は出身以來功績顯著者であつたが病氣に罹り死亡したので特に生前の日を以て別紙名簿の位に叙せられるやう御銓議願ひたい。

内閣人選簿

人貳第一三一〇號

昭和二十一年六月十七日

運輸大臣 平塚 常次郎



内閣總理大臣 吉田 茂 殿

稟請

叙位の件



運輸通信省

運輸事務官小畑喜三郎は出身以來功績顯著な者であつたが公傷に因り死亡したので特に生前の日を以て別紙名簿の位に敘せられるやう御銓議願ひたい。

丙 發第一二四七號

一 運輸局長 飯倉 勇

右本田 紘位相成候ニ付此旨及傳達候位記ハ追テ可及回送候也

昭和二十一年七月五日

宗秩寮總裁 侯爵 松平小波康公員

運輸大臣 平塚常次郎 殿

官 内 省



皇 宮 内 省 御 用 御 禮 物 御 寄 附 書 簡

宗 拜 寮 總 裁 千 賀 左 衛 門 少 輔 公 共

昭 和 二 十 年 乙 丑 年 五 月 五 日

又 回 送 候 也

右 本 日 送 付 御 禮 物 御 寄 附 書 簡 二 冊 出 旨 又 對 送 候 御 寄 附 書 簡 八 冊 送 付

一 冊 送 付 御 寄 附 書 簡 一 冊

丙 發 第 一 〇 五 八 號

丙 發 第 一 〇 五 八 號

一 冊 送 付 御 寄 附 書 簡 一 冊

右 本 日 送 付 御 禮 物 御 寄 附 書 簡 二 冊 出 旨 及 傳 達 候 位 記 八 冊 送 付 可

及 回 送 候 也

昭 和 二 十 年 乙 丑 年 五 月 五 日

宗 拜 寮 總 裁 千 賀 左 衛 門 少 輔 公 共

皇 宮 内 省 御 用 御 禮 物 御 寄 附 書 簡



宮内省

宗秩寮總裁 宗秩寮總裁 宗秩寮總裁

宗秩寮總裁 宗秩寮總裁 宗秩寮總裁

昭和二十一年七月五日

又回送候也

一本白蠟並附封二付此旨又附封並附封八紙之可  
一本 附封 附封 附封 附封 附封 附封 附封 附封

丙 發第一二四九號

一 送輸 事務官 小田直基

右本日敍位相成候ニ付此旨及傳達候位記ハ追テ可  
及回送候也

昭和二十一年七月五日

宗秩寮總裁 宗秩寮總裁 宗秩寮總裁

宗秩寮總裁 宗秩寮總裁 宗秩寮總裁

宮内省



宗秩寮總裁

宗秩寮總裁 佐香小親公共

昭和二十一年七月五日

又回送候也

右本日敍位相成候ニ付此旨又傳達候位記ハ追テ可

一 宗秩寮總裁 佐香小親公共

丙 發第一三五〇號

丙 發第一三五〇號

一 宗秩寮總裁 佐香小親公共

右本日敍位相成候ニ付此旨及傳達候位記ハ追テ可

及回送候也

昭和二十一年七月五日

宗秩寮總裁 佐香小親公共

宗秩寮總裁 佐香小親公共



宮内省

大正十二年九月十八日

宗拜寮縣越千鶴 左番小堀公共

調味ノ平ノ月廿日

又回送列也

本日出給列并知列ニ付此旨又轉送列並  
給ハ能モ可  
一  
丙 發第一二七九號



宮内府

丙 發第一二七七號

一 飯倉 勝外十一名

右の者の位記を送りますからよろしくお取計らい願  
たい

昭和三年九月十八日

宮内府長官 松平慶民

運輸大臣 苜米地 義三殿

人壹才四七二号  
人貳才一三七〇号  
一三二四  
一三五六



宮内省

〃 〃 〃 〃 〃  
〃 〃 〃 〃 〃

勲一等大勳 勲一等大勳 勲一等大勳

宮内省 勲一等大勳

昭和二十二年八月十八日

イニ

イニの答の並請を致しませぬものとす。此項指しに願ひ  
一 勲一等大勳

丙 録 第 一 号

勲一等大勳



立案 昭和 年月 日  
決裁 昭和 年月 日

宗秋長總裁



文部教官小塚新一郎外三名叙位  
の件

官内省

昭和二十二年七月九日  
文部省

三三